



すまいる一歩参加団体の紹介

高崎高島屋

企業概要①

- ・名称:株式会社 高崎高島屋
- ・歴史: 1831年 京都で古着・木綿商として高島屋 創業
1977年10月 高島屋高崎店 開店
2004年 分社化、株式会社高崎高島屋として現在に至る
- ・事業内容:百貨店事業、法人事業、通信販売事業、グループ事業
- ・店舗:国内19店舗、国外3店舗 (2016年7月30日現在)

企業概要②

○高崎高島屋の町づくりの取り組みについて

地元の商店街に加盟・市内のイベントに参加・おとまちプロジェクトへの協力等、高崎市を盛り上げることに力を入れている。

○社員教育について

- ・ブランドやメーカー自体の教育(販売のルール・接客方法等について) + 高島屋の入店教育
- ・ISO教育

☆ISO教育

ISO14001とは・・・
環境マネジメントシステム（企業が地球環境に負担をかけずに運営していく仕組み）

商品のこだわり①

ふるさとギフト

お中元、お歳暮のギフト商品として取り組まれている「ふるさとギフト」。

群馬の名産をもっとたくさんの人に知ってほしいという方や、仕事などで群馬を離れた人が、群馬の味を思い出したいということで、取り寄せてくれる利用者がいる。

このように、群馬のものを広めることも、群馬県民にいつまでも愛してもらえるようなギフトをつくることも、地域貢献の一つだと考えている。

感謝の心を、群馬を代表する
名品にのせて贈りませんか。

2016歳暮
群馬の味

ふるさと ギフト



商品のこだわり②

高崎市×高崎高島屋コラボ企画 「ふるさと納税」

○概要

高崎高島屋では、3年前から、高崎市とのコラボレーション企画として「ふるさと納税」にも関わっている。

この取り組みについては、米子高島屋が企画して以来、各店舗で実施の動きが進み、高崎高島屋でも企画し、積極的に地域の発展に貢献している。

＜高崎ハム＞
群馬県産ハムセット



○内容

寄付金に応じた「群馬県ふるさとグルメ」の返礼品がある。

ここでは、群馬県の特産品であるシイタケや下仁田ネギ、赤城牛のハンバーグ、高崎ハムなど、多くのふるさとグルメがある。



＜小金沢農園＞
下仁田ネギ



＜赤城牛のとりやま＞
赤城牛焼き上げハンバーグ



＜こんにゃくパーク＞
バラエティセット

すまいる一ぷの取り組み

○すまいる一ぷ加盟理由

- ・地球環境の改善に貢献
- ・百貨店としてできることを
⇒地域貢献にもつながる

○すまいる一ぷ取り組み内容

- ・高島屋の青果売場から出る残渣、主に葉物の提供
⇒一日約30キロ



今後の展望

○企業としての取り組み

- ・「高島屋」という名前のブランド力の維持・発展
- ・他店に負けない顧客獲得戦略
2017年の駅前OPA出店、ペDESTリアンデッキ延伸等
売場面積を増やし新たに強力なブランドを取り入れ、
顧客獲得を目指す
⇒**地域一番店の継続**
高崎の街になくてはならない店舗として認識してもらうため、
お客様により付加価値の高い商品・サービスの提供を今後も
続けていく

○すまいる一ふでの取り組み

・社内の認知度の向上

すまいる一ふの取り組みをあまり知らない社員がいる現状。社員がより深く認知することで、さらなる発展や取り組みに対しての新たなアイデアが生まれる可能性もある。

・すまいる一ふの取り組みのアピール

多くの人にすまいる一ふの取り組みを知ってもらうために、さらなるアピールが必要。



すまいる一ふに関して多くの人に知ってもらえるような
機会の構築が必要。

○地域とのかかわり方

- ・市民のお客様にどれだけいい商品を提供できるかの追求
品ぞろえの工夫や新たなブランドを取り入れるなどの戦略を考えながら、お役様が満足していただけるようなサービスを提供していく。
- ・行政とのかかわり、連携
群馬展のような催しや地域での取り組みを積極的に実施・支援し地域の発展に貢献する。



○環境問題への取り組み

- ・社内のリサイクル率の向上
ゴミの分別の徹底をし、リサイクル率を向上させる。
ISO14001の取り組み。

- ・環境教育
やるベンチャーで訪れた中学生及び職場体験の高校生・大学生に環境問題への教育を行っている。

⇒社員の意識向上は、群馬県民、高崎市民のごみ排出量・リサイクル率の向上につながる



実際の高崎高島屋の
リサイクルステーション
の様子

○ご協力いただいた方々

株式会社高崎高島屋
営業推進部総務グループ
矢島 孝様

○取材者

高崎経済大学
地域政策学部 地域づくり学科3年
大宮研究室所属

- ・志鳥 絢香
- ・南条 調
- ・清水 力

